

・ 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色

1．苫小牧駒澤大学の建学の基本理念

【基本理念】「行学一如」による人間形成

本学建学の精神は、仏教の教義、とりわけ曹洞宗立宗の精神に則り人間形成を行うことにあり、その基本理念は「行学一如」「信誠敬愛」と明確に表現される。我が国に曹洞禅を伝えた道元禅師の教えの基本は坐禅の実践にこそある。「修証一如」、すなわち修行（「修」）とさとり（「証」）は相対的ではなく切れることのない円環であり、それをもって真理に到達し得る。本学建学の基礎理念「行学一如」の「行」とはすなわち「実践」、「学」とは学問研究のことであり「理論」を学ぶことである。この「理論」と「実践」の融合による人間形成こそ、本学教育の基本理念に他ならない。

「行学一如」の理念は、実践的綱目として「信誠敬愛」という言葉で具体化される。「信誠敬愛」の「信」は、教えを信じ、また自らを信じること、「誠」は、その信念に基づいて誠実に努めることを意味する。また「敬」は、自分自身と他者の尊厳を明確に意識し尊重すること、「愛」は、慈愛の心を持って自己の学びを周囲へ還元していくことを意味している。

2．苫小牧駒澤大学の使命・目的

「学校法人駒澤大学寄附行為」第3条には「この法人は、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に基づき学校を設置し、仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に則り、学校教育を行うことを目的とする」としている。すなわち、学校教育法第83条の大学の目的である「深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を展開させる」ために「禅」の精神に則り、教育基本法第1条冒頭にある「人格の完成を目指す」ことである。

苫小牧駒澤大学は、上述の学校法人寄附行為に基づきながら、「教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、建学の精神である仏教による人間教育を基礎として人格を陶冶し、国際文化の進展並びに地域の文化水準高揚に貢献できる有意な人材の養成を目的とする。」（「学則」第1条）としている。学ぶことは、そのままその人格の形成にも通ずる。努力して身につけた知識・技能は、人格の核となり、生活実践を通してさらに高められていく。本学は禅の精神を基本とするこの目的に則り、北海道の地において「行学一如」「信誠敬愛」を体現し得る人材、地域社会の振興と進展に寄与するのみならず、国際社会においても活躍できる人材を育成することに努めている。

3．苫小牧駒澤大学の個性・特色

本学は苫小牧市及び隣接する6町（白老町、早来町、追分町、厚真町、鶴川町、穂別町；現在は白老町、安平町、厚真町、むかわ町）と学校法人駒澤大学の公私協力により設立された。そのため苫小牧市及び地域企業や社会教育施設、近隣小中高校との連携・協力により、地域の資源・人材を教育課程や教育環境の構成に活用するとともに、本学の物的・人的資源を地域社会に還元し広く市民の生涯学習機会の拠点となる

べく努めている。

教育課程においては、前述した禅の精神、建学の基本理念である「行学一如」に依拠しつつ、人間学としての「仏教」を必須科目に設定し、学生が求める多様な学びへの理解を深める原動力としている。本学における入学式、卒業式、そして毎月行われる法要などの儀式的行事を通じ、また、多様な仏教関係科目の履修や実習科目である「禅」の実践を通して、本学学生は「禅」の精神に則った学びの環境に日々身を置くことを実感する。2年次から所属できる専門コースのうち、仏教文化コースでは曹洞宗門との関わりが深いため、本学正規の教育課程の枠に留まらぬ見えないカリキュラムとしてキャンパスの学びの雰囲気醸成している。寺院住職を希望する学生には曹洞宗学による「仏教専修科」の課程が別に設けられており、「曹洞宗教師資格(2等教師)」の資格を得ることができる。毎月行われる本学月例法要では「仏教専修科」所属の学生が活動の中心となり執り行われている。

「基準3」において詳述する教育課程においては、「仏教」を学びの基幹としつつ国際文化学部にて7つの専門コースを設けており、幅広い分野の科目履修により豊かな教養力を身につけ、1つの専門性を確立する「総合的教養教育」を主眼とする教育課程を構成している。学生の多様な興味・関心に応えられるように、所属専門コース以外で開講される専門科目の学修も可能となるよう、教育課程を工夫している。

地理的には、北海道の空の表玄関でもある新千歳空港にも近く、港湾都市苫小牧に立地している性格からも、国際文化の進展並びに地域の文化水準高揚に貢献することを教育目的の一つとしている。本学では、セメスター制の導入や他国・他地域における学修への単位互換を制度化することにより、学生が様々な文化と直に接し、人生や思考の糧とできるよう教育環境の整備を行っている。また、諸外国・地域の高等教育機関と締結した、交換協定に基づいて派遣されてくる交換留学生、短期語学(日本語)研修生、そして正規の留学生と日本人学生との交流も活発に行われている。

また、本学が立地する胆振・日高地方は古来多くのアイヌの人々が居住し、アイヌ文化の伝統が深く息づくところであり、アイヌ民族の学生も少なくない。この地域的特性を活かすとともにアイヌ文化の継承・振興に寄与するため、国際文化学科専門コースとして北海道・アイヌ文化コースを設けている。一般教育科目の語学科目として「アイヌ語1、2」を導入し、実習科目に「アイヌ文化実習A、B」を設けるなど、専門コース所属以外の学生にも広くアイヌ文化に触れる機会を設けている。本学併設の環太平洋・アイヌ文化研究所では、白老に所在する財団法人アイヌ民族博物館と連携し教育・研究活動を行っている(「 . 特記事項2 環太平洋・アイヌ文化研究所」に詳述)。研究所における活動は本学学生の学びに還元されるとともに、近隣市町の方々にとっては一般公開講座や研究会などを通じ、生涯学習機会の創設という意味で意義がある。本学はアイヌ文化を総合的に学べる唯一の大学であり、多文化理解という観点から理想的な学習環境を提供している。

また、教育課程外の活動ではあるが、「行学一如」の基本理念の下、人格の陶冶を目的としてスポーツ活動にも力を入れている。強化指定クラブとして硬式野球部、アイスホッケー部、サッカー部、バドミントン部、剣道部、バスケットボール部があり、道内教育機関では唯一の全天候対応の人工芝サッカー場を持つなど施設整備がなされ

ている。これらの部は道大会では常にトップを争っており、アイスホッケー部は全日本選手権でベスト8になるなど氷都苫小牧を代表する大学にふさわしい成績をあげている。